



11月 幼稚園だより

令和5年11月1日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵



物語の世界を楽しむ - イメージのもつカ -

園長 中村 千絵

(番町幼稚園HP)

10月末の「親子スポーツデー」では、たくさんの方にご参観、ご参加いただき、ありがとうございました。お寄せいただいたご意見の中に、子どもたちの姿のこのみならず、「真剣に綱引きを楽しみました！」と言った大人の方自身が楽しんでいただいたことに触れてくださった声がたくさんありました。共に楽しむことは、より楽しさを膨らませていきます。大人の方が楽しんでくださったことで、子どもたちの楽しさもより増していったと思います。

イメージをもつことで、体の動きが変化する

3歳児もも組に「ペンギンのペンタくん」から、親子スポーツデーの数週間前から、お手紙が何度か届きました。ペンタは、踊りが大好きなこと、楽しい音楽を聴くとおなか为空くこと、お手紙が届くたびに、子どもたちの中で、ペンタのイメージが膨らんでいきます。



そして、ある日、ペンタから、腕に付けるポンポンと共に「これをつけると、高くジャンプできるよ」というお手紙が届きました。ポンポンを腕に付けると、子どもたちは本当に高くジャンプするのです。イメージの世界の楽しさが意欲につながり、動きまで変えていく。このペンタの物語は、「親子スポーツデー」当日のもも組のリズム表現の演技につながっていききました。

絵本の続きを楽しむにする

どの学年でも、毎日、学級全体で絵本を読み聞かせる時間が必ずあります。季節感のあるもの、その日の子どもたちの遊びに関連するもの、そしてお話の楽しさを感じられるもの。子どもたちはシリーズものの絵本が大好きです。4歳児さくら組は「ともだちや」、5歳児うめ組は「あらしのよるに」のそれぞれシリーズの絵本を読んでいます。続き物やシリーズの絵本は、「次はどうなるんだろう」という期待感につながり、長い期間、子どもたちが「絵本の世界」を楽しむことができます。

物語の登場人物の気持ちになる

本を読んでいる時、映画を観ている時、登場人物の気持ちになって、悲しい気持ちになったり、勇気もらったりする経験は、誰にでもあると思います。

「思いやり」や「優しさ」は、「相手の立場に立ってものを考える」ことです。物語の世界を楽しむことは、今ここにはない世界に身を置き、自分ではない登場人物の心情を感じることです。「イメージする力」を育むことは、子どもたちに生きる力を与えることにもなっています。

3歳児の子どもが、遊びの中で、寝ているぬいぐるみに、本を読んであげていました。ご家庭で、寝るときに読み聞かせをされていることが伝わってくる姿でした。字が読めるようになって、身近な大人から本を読み聞かせてもらうことで、イメージを自分の中で、作っていく力は高まっていくそうです。読み聞かせの時間は大人にとっても、物語を楽しむ時間です。

どうぞ、ご家庭でも物語を楽しんでください。

番町の自然



今年も番町幼稚園産の稲が実りました。うめ組の子どもたちが、稲刈り、脱穀、もみすりと「お米パーティー」に向けて準備を進めています。

